

授業改善推進プラン

第5学年

	指導方法の課題分析	目指す授業の改善計画	備考
国語	<p>☆3年生の漢字の書きが20.3%、主語・述語・修飾語を見付ける問題が5.8%で、正答率が低い。</p> <p>○語彙を増やすために、学習した漢字を作文やノートの中で意図的に活用する場面を増やす必要がある。</p> <p>○相手に伝わるように話したり、相手の意図を考えながら聞いたりするための指導が必要である。</p> <p>○文章全体の構成を考えたり、自分の感じたことを「書く」指導が必要である。</p>	<p>☆漢字を使った作文や日記を書く活動を朝学習で行ったり、宿題に取り入れる。</p> <p>○分からない言葉は辞書で調べたり、学習した漢字を文章の中で使ったりできるような指導をする。</p> <p>○スピーチや対話、話し合い活動などを取り入れる。</p> <p>○書くためのヒントになるような表現や言葉を提示し、書くことにつまずきがちな児童を支援する。</p>	
社会	<p>☆資料を読み取って考える問題の正答率が43.5%、東京都の市町村名を答える問題の正答率が56%と低かった。</p> <p>○グラフなどの統計資料を読み、意味をとらえる活動をもっと増やす必要がある。</p> <p>○資料の読み方を身に付けさせ、比較・関連付けて読み取る見方考え方を育てる必要がある。</p>	<p>☆地図帳を日常的に使うようにし、社会科以外の教科でも地図帳で地名を確認するなど、意識して地図や資料を読ませるようにする。</p> <p>○資料の読み取り方を指導し、意見交換を行うなどして、資料活用能力の向上を図る。</p> <p>○統計資料から分かることを関連付けて考える習慣を付ける。</p> <p>○都道府県名や位置を覚える際、特産品や県の特色などと関連づけるようにする。</p>	
算数	<p>☆全体的に正答率が低く、理解できていない項目が多かった。□を使った式の問題が20%、表の読み取りが26%と低かった。</p> <p>○小数のわり算を定着させるために、継続的に練習する機会をつくる必要がある。</p> <p>○文章問題で、何を問われているかを意識して問題を読ませる工夫が必要である。</p> <p>○児童が自分の考えをもち、意欲的に表現・発表できるようにするための工夫が必要である。</p> <p>○計算力(特に割り算)をより伸ばしていく指導が必要である。</p>	<p>☆ベーシックドリルを中心に、既習事項を復習し、忘れないようにする。統計資料を読む活動を社会科などでも意識して行うようにする。</p> <p>○数学的な考え方をつけさせるために、発展的な問題や答えが一つではない問題を多く解かせる。</p> <p>○立式の際は、何を求める問題なのか考え、表や数直線を書いてから式に表す。児童同士で説明し合う場面を増やす。</p> <p>○考えの根拠を明らかにするような場面を増やす。</p> <p>○朝学習の時間に東京ベーシック・ドリルなどを活用して、時間を区切って計算練習をする。</p>	
理科	<p>☆実験結果をグラフから読み取る問題や、実験方法を答える問題での正答率が20%台で低かった。</p> <p>○資料から必要な情報を取り出す活動を意図的に設定する。</p> <p>○観察・実験の予想を立て、見通しをもって取り組むための指導の工夫が必要である。</p> <p>○観察方法や実験方法を工夫し、その過程や結果を分かりやすく表現する支援が必要である。</p>	<p>☆実験結果をグラフや表にまとめる活動や、結果からどのように考察したら良いかに重点をおいて指導する。</p> <p>○授業の中で、なぜそうなのか、ということについて追究できるような場面を作る。</p> <p>○資料をよく読み、何を問われているのか、ということについての考え方を指導する。</p> <p>○既習事項を基にして予想を立てたり、筋道を立てて自分で考えたりする時間を設ける。</p> <p>○ノートの使い方を指導し、自分の予想や実験の結果・考察をノートにしっかりとまとめさせることで理解の定着を図る。</p>	
総合	<p>○計画的に資料を集め、資料を使ってまとめるための支援が必要である。</p> <p>○児童が興味・関心をもって自ら追究活動ができるような課題設定をする必要がある。</p>	<p>○インターネットや図書の本の中から、あらかじめ必要と思われる資料を用意しておき、児童が調べやすい環境作りをしておく。</p> <p>○調べたことや体験から分かったこと、思ったことをまとめたり、発表したりする。</p>	○外部講師の活用
外国語活動	<p>○どの児童も臆せず会話に入れるように、参加型の指導方法を更に工夫する必要がある。</p>	<p>○さまざまなゲーム・アクティビティ・発音練習を取り入れ、児童に自信をもたせる。</p> <p>○活動の中で、互いに会話しなければならぬ状況をつくり出し、会話することが楽しいと思わせるようにする。</p>	○ALTの活用
音楽	<p>○楽曲のよさを味わったり、音楽の特徴を捉えて表現する力に課題があるため、音楽の様々な要素に触れ、それらを表現に生かす指導方法を工夫する必要がある。</p>	<p>○鑑賞の活動では、音楽の要素に注目し、その役割を考えたりそれらがいかにも出す曲のよさに触れたりする。実際に音楽の要素を意識させた簡単な音楽づくりの活動を行う。また、感じたことを表現の工夫に生かす指導を行う。</p>	
図工	<p>○材料・用具の特徴から自分なりのイメージを表す力を身につけさせる必要がある。</p>	<p>○色の暖かさや形の柔らかさなどの感じを用いて、自分なりのイメージを表すことの面白さを味わわせる。</p> <p>○自分の活動の価値に気付かせ、自己肯定感を高めるとともに、多様な表現を互いに認め合える雰囲気育てる。</p>	
家庭	<p>○製作などに時間がかかり、時間内に終わらない児童に対する支援が必要である。</p>	<p>○裁縫やミシン、調理実習はできるだけ多くの目で指導に当たり、一人一人の状況に合わせた指導を行う。</p>	○保護者ボランティアの活用
体育	<p>○各運動での技能における個人差への対応を工夫する必要がある。</p> <p>○児童が自分たちで考えながら個人や集団の運動技能を高められるような授業の工夫が必要である。</p> <p>○児童が安全に練習しようという意識をもたせる必要がある。</p>	<p>○VTR等も活用し、運動のポイントがよく分かるように工夫する。</p> <p>○学習の流れ、めあてを明確に示すとともに、学び合いや励まし合いができるような場面設定をする。</p> <p>○器械運動で、運動の始めや終わりをハンドサインで知らせ、安全に運動できるような指導する。</p>	○学習カードの活用 ○ICTの活用